

第4章 「のへじふるさとカルタ」一覧

「のへじふるさとカルタ」について

この「のへじふるさとカルタ」は、子ども達にふるさと野辺地町に興味や関心を持ってもらい、ふるさとの歴史や文化を理解してもらうことを目的としてつくりました。

読み札は、昭和56年に東奥日報社野辺地支局長だった工藤晃氏が制作した「野辺地いろは歌」を参考にして、のへじふるさとカルタ制作実行委員会が、町の歴史や史跡、年中行事や町の人々の生活を題材にして作りました。絵札は、切り絵の技法を取り入れて、絵札制作指導者のもと小学生の皆さんが楽しく作りました。

このカルタが各種のカルタ大会や家族の団欒に、そして学校の地域学習に活用され、子ども達のふるさとを愛する心が育つことを願っています。

※「のへじふるさとカルタ」箱蓋より

のへじふるさとカルタ読み札一覧

㊶ 哀れな伝説 ^{びわのがわ} 枇野川の夜泣き石	㊸ 縫い合わせ ^{ぬい} ふくさとして残る ^{えぞじき} 蝦夷錦
㊷ 今もなお ^{けなげ} 健気な ^{まじこよじ} 老木西光寺のシダレザクラ	㊹ 熱心 ^{ねっしん} に ^{ほつぽうたんけん} 北方探検の ^{もがみとくぬい} 最上徳内
㊸ 海を照らし ^{しょうやとう} 船を見守ってくれた ^{じょうやとう} 常夜燈	㊺ 野辺地 ^{のへじ} 駅を守り ^{まも} 続ける ^{にほん} 日本初の ^{ふゆの} 防雪林
㊹ 延々と ^{のびのび} 牛の背で ^{うし} 運ばれた ^{こようどう} 御用銅	㊻ はまなすの ^{はまなす} 咲きほこる ^{とふ} 十符ヶ浦 ^{がうらかいすいよくじょう} 海水浴場
㊺ 親子で ^{おやこ} 学べる ^{ねきし} 歴史民俗 ^{しんりゆう} 資料館	㊼ 広々と ^{ひろひろ} むつ湾を ^{のぞ} 望む ^{まかど} 温泉 ^{すきー} スキー場
㊻ 上方から ^{かみかた} 伝えられた ^{かほ} 香ばしい ^{ちやがゆ} 茶粥	㊽ 古里の ^{ふるさと} 自慢の ^{けいらん} 味は ^と 鶏卵 ^{とうふ} と ^せ 寄せ豆腐
㊼ 客船 ^{きやくせん} 帳に ^{じやう} 往時を ^の 偲ぶ ^{のへじ} 野辺地 ^{たて} 湊	㊾ 平安を ^{やすら} 祈っています ^{かいてい} 海中寺の ^{あみだ} 阿弥陀 ^{さま} 様
㊽ 苦難 ^{くるなん} さまざま ^ま 津藩士 ^{つはんし} の ^{ぼひょう} 墓標	㊿ 頬 ^ほ が ^お 落ちそう ^お 帆立 ^{ぼんたて} の ^貝 貝 ^き 焼き
㊾ 絢爛 ^{けんらん} の ^{だし} 山車 ^{さんぐる} しずしずとの ^へ へ ^じ 祇園 ^{ぎおん} まつり	㊶ 稀 ^{まれ} に見る ^ま 大きき ^{ばんじゆうりつ} 縄文 ^{くわんもん} の ^板 板 ^{たて} 立 ^{あし} 脚 ^つ 土 ^ど 偶
㊿ 子ども ^{こども} らの ^{ふゆ} 冬の ^{あそび} 遊びは ^{ゲロ} ・ ^{キン} キン ^{ペイ} ペイ	㊷ 見晴らし ^{みはらし} の良い ^{あたら} 愛宕山 ^に 立つ ^{ばし} 芭蕉 [・] 啄木 [・] 絶壁 ^の の ^ひ 碑
㊶ 三百年 ^{さんひゃくねん} 咲き ^つ 続ける ^{きた} 北限 ^の のエド ^ヒ ヒガン	㊸ 無常 ^{むじやう} 感 ^{かん} しみ ^じ じみと ^こ 古戦場 ^{ふるせんば} 鳥井 ^の 平 ^の の ^墓 墓 ^所
㊷ 清水 ^{しみず} こんこん ^{きたまえ} 北前 ^の 船 ^も 用いた ^{すいじん} 水神 ^{さま} 様の ^{みづ} 水	㊹ 明治 ^{めいし} 天皇 ^の がお ^泊 りになった ^{あんざい} 行在 ^の 所
㊸ 姿 ^{すがた} にも ^{めい} 気品 ^あ あふれる ^{めい} 名馬 ^{うま} 花鳥 ^の 号	㊺ もう ^{もう} 二度 ^に と ^{せん} 戦争 ^は は ^し ませ ^ん ん ^{しゆ} 忠魂 ^の 碑
㊹ 生産 ^{せいさん} 高 ^{たか} 日本 ^を め ^が め ^す 野辺地 ^の の ^こ こ ^ぶ ぶ	㊻ 山並 ^{やまなみ} みに ^{まち} 町の ^{しん} シン ^{ぽう} ポウ ^の 鳥 ^の 帽子 ^の 子 ^の 岳
㊺ その ^{その} 昔 ^{むかし} 旅 ^の の ^し し ^る べの ^の 一 ^の 里 ^の 塚	㊼ 行く ^{いく} 雲 ^を 幾 ^を 年 ^を 見 ^た か ^{だい} 代 ^官 所 ^跡
㊻ 啄木 ^{たくぼく} と ^{ゆかり} 縁 ^の の ^{深い} 深 ^い 常 ^光 光 ^寺	㊽ 喜 ^こ んで ^り 家族 ^を 味 ^わ う ^ご 御 ^祭 礼 ^の 儀 ^頭
㊼ 茅 ^ち の ^わ 輪 ^{ぐり} ぐり ^む 無 ^病 病 ^を 祈 ^る 神 ^明 明 ^宮	㊾ ら ^ら で ^ん ん ^ほ ど ^こ も ^く 胎 ^{たい} 胎 ^し 漆 ^器
㊽ 鶴 ^{つる} が ^い 傷 ^を 癒 ^{した} ま ^か ど ^{おん} 温泉	㊿ 立 ^た 派 ^な な ^{りゅう} 流 ^{ぞう} 造 ^の 屋 ^ね 根 ^金 刀 ^比 羅 ^宮
㊾ 庭園 ^{てい} に ^{その} その ^な 名 ^を 刻 ^む 野 ^村 家 ^の 頭 ^徳 徳 ^の 碑	㊶ ルーツ ^は アイ ^ヌ 語 ^が 野 ^辺 地 ^の の ^{地名}
㊿ 友 ^{とも} 達 ^も 親 ^も も ^{一つ} 一つの ^わ 輪 ^に なり ^さ サ ^サ 踊 ^り	㊷ 歴史 ^を つ ^ぶ さ ^に 見 ^て きた ^の 野 ^辺 地 ^の の ^川
㊶ 南 ^{みな} 部 ^と 津 ^つ 軽 ^二 股 ^川 を ^挟 んだ ^は 藩 ^境 境 ^塚	㊸ 老 ^{ろう} 若 ^{にょ} 男女 ^が 幸 ^せ せ ^祈 る ^{ちん} 鎮 ^守 八 ^幡 幡 ^宮
㊷ 「ニシ、ニシ」 ^が 懐 ^{かしい} 野 ^辺 地 ^の の ^弁	㊹ 我が ^{まち} 町の ^{めい} 誇 ^{れる} 名 ^誉 町 ^民

